

絆

KIZUNA

公認会計士白門会 NO. 20

創立 20 周年を迎えた本会のこれまでと、これから

公認会計士白門会
会長
伊藤大義



平成 25 年 6 月 22 日開催の第 20 回定時総会において、公認会計士白門会の会長に就任させていただきました。昭和 46 年経済学部卒業の伊藤大義でございます。これからの 2 年間、微力ながら会務に全力を尽くしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本会が昨年創立 20 周年を迎えたことを踏まえ、これまでの活動状況を振り返り、更に、これからの活動方針等について簡単に述べさせていただきます。

1. 公認会計士会白門会への名称変更

本会は、学会会からの「白門会」という名称を使用して欲しいとの要請に応じて、他の学会会と平仄をあわせるため、先の定時総会において会の名称を「中央大学公認会計士会」から「公認会計士白門会」に変更させていただきました。諸先輩方が命名し長年使用された名称を変更することになりましたが、事情ご賢察の上ご理解いただけますようお願い申し上げます。

2. 創立 20 周年を振り返って

本会は、平成 24 年 10 月に学会会支部創設 20 周年を迎えることができましたが、20 年もの長きにわたり学会会活動を継続することができましたのも、ひとえに諸先輩並びに歴代会長及び幹事長等の執行部の方々のご協力と献身的なご支援のお陰であり、ここにご氏名を記して、深く感謝の

意を捧げさせていただきます。

皆様ご承知の通り、本会の会員の多くは過去に日本公認会計士協会の本部又は地域会の会長、副会長、常務理事等の要職に就任して大活躍をされ、業界の発展に多大の貢献をされました。

現在においても、多数の方々が役員としてご活躍中であり、昨年 9 月の神戸ポートピアホテルにおける研究大会後の中央大学卒業公認会計士による「懇親会」には、多数の会員と現役役員の方々に出席いただき、楽しい盛大な会を開催することができました。来年以降も研究大会後に大会会場と同一のホテルにおいて、中央大学卒業公認会計士による「懇親会」を開催いたしますので、万一、事務局の手違いで「懇親会」開催のご連絡が未達の場合でも、ぜひとも当日ご参加を頂きたく、お待ち申し上げております。

3. 公認会計士試験への支援活動

平成 25 年度の本大学の公認会計士試験合格者数は、77 名であり、大学別の合格者数は第 3 位であったと聞いております。

本会では、更に大学における合格者数の増加を側面から支援し、公認会計士試験への動機付けとするため、中央大学商学部と協力して昨年からは開講した「中央大学特殊講義」を継続発展させるべく、メインテーマを「制度変更にとまなう公認会

計士の業務の実際」として、引き続き若手の会員の中から講師を派遣し、様々な局面における公認会計士業務の実際を15回にわたって講義しており、毎回多数の学生の参加を頂いています。

4. 本部・地域会の役員への参加

試験合格者は、合格後は通常各監査法人にて各種業務に従事することになるものと考えますが、一方、本部や地域会において役員に就任し積極的に会務に参加することも、業界の発展のため及び自己実現のためにも極めて有益なものと考えます。更に、本学卒業の公認会計士が業界において引き続き存在感を確保するためには、我々先輩が、若手の会員に積極的に協会活動に参加するよう推奨するとともに、支援することが不可欠と考えています。もし皆様の近くに協会や地域会の会務に関心を持っている人や適任と思われる若手の会員がおりましたら、ぜひとも、協会役員等に立候補することのメリット等についてお声掛けいただきたくよろしくお願いいたします。

5. 公認会計士白門会へのご参加のお願い

ただ、そうはいつでも、定時総会や新年会等への会員の皆様の参加者が少ないのも現実であり、

特に、若手の会員の参加状況には目を覆うものがあります。しかし、この状況は我が中央大学だけの問題ではなく残念ながら他の大学においても大同小異の状況です。

これに対する対策としては、前々執行部から年次別会員制が提案されており、ここにおいては特に公認会計士登録番号10,000番以降の会員を対象とした年次幹事の選任と年次幹事会の発足が提案されています。私の2年間の任期中に、若手の会員のご協力をえながら、5年次程度にグループ分けした年次別会員制の導入を図るべく、すべての会員を各グループに分類した名簿を作成するとともに、年次別の幹事の選任と、年次別幹事会の立ち上げを目指してまいりたいと考えています。

今後は、本会の良き伝統を守り、次世代に更に発展させた形で引き継ぐべく、成田智弘幹事長及び幹事のみなさんと十分に協議しながら、円滑な会務運営を心がけます。

皆様におかれましては、業務ご多忙のこととは存じますが、久しぶりの情報交換の場又は同窓会として、本会の会合へのご参加を心からお待ちしております。

< 歴代会長及び幹事長 >

会長		幹事長	
在任期間	氏名	在任期間	氏名
第1期(平成4年度) 第2期(平成5年度) 第3期(平成6年度)	川北 博先生	第1期(平成4年度) 第2期(平成5年度) 第3期(平成6年度)	増田 浩二先生
第4期(平成7年度) 第5期(平成8年度)	山本 秀夫先生	第4期(平成7年度) 第5期(平成8年度)	福田 眞也先生
第6期(平成9年度) 第7期(平成10年度)	増田 浩二先生	第6期(平成9年度) 第7期(平成10年度)	三和 彦幸先生
第8期(平成11年度) 第9期(平成12年度)	川島 正夫先生	第8期(平成11年度) 第9期(平成12年度)	中根 堅次郎先生
第10期(平成13年度) 第11期(平成14年度)	木下 徳明先生	第10期(平成13年度) 第11期(平成14年度)	
第12期(平成15年度) 第13期(平成16年度)	金井 一夫先生	第12期(平成15年度) 第13期(平成16年度)	後藤 徳彌先生
第14期(平成17年度) 第15期(平成18年度)	福田 眞也先生	第14期(平成17年度) 第15期(平成18年度)	
第16期(平成19年度) 第17期(平成20年度)	三和 彦幸先生	第16期(平成19年度) 第17期(平成20年度)	柏崎 周弘先生
第18期(平成21年度) 第19期(平成22年度)	宮内 忍先生	第18期(平成21年度) 第19期(平成22年度)	
第20期(平成23年度) 第21期(平成24年度)	遠藤 忠宏先生	第20期(平成23年度) 第21期(平成24年度)	成田 智弘先生

当会設立時を回顧して

公認会計士白門会
元会長
増田 浩 二



中央大学公認会計士会が「公認会計士白門会」と改称されました。この会名変更については、当会設立に関係した一人である私にとって、感慨深いものがあります。会設立当初からこの会名を使用したかったのです。当時、たとえば慶応大学には公認会計士三田会、早稲田大学には稲門公認会計士会といったように、それぞれの大学に公認会計士会がありました。しかし、中央大学出身の公認会計士数が最も多かったにも拘わらず、中央大学出身者による会がありませんでした。そこで、われわれも公認会計士会を作ろうではないかということになりました。それが20年以上前にことです。ところが設立にあたり「白門」の呼称を使用しにくい事情がありました。会が長く継続するには任意の団体でなく、中央大学学会の支部とすることを考えたのですが、学会には一業種一支部というルールがありました。会計関係には公認会計士、税理士すべての会計人を会員とする白門会計人会支部、大学時代のクラブや特定のグループの方々により構成されている支部が既にあり、これら支部にはすべて「白門」という呼称が使用されていました。支部設立では後発であった当会は、同じ業界の他支部に配慮して、「白門」の呼称を使用することを避けたのです。この度公認会計士白門会と会名を変更したことは設立当初に考えていた名称になったわけです。

また、当会の設立を準備する段階で、名称のことは別に、会の在り方についていくつかのことを話し会いました。このことについても触れることにします。

① 会員は、東京、大阪、名古屋の都市部のみを中心とせず、全国の中央大学出身公認会計士とする。

- ② 出身学部、クラブ、ゼミを問わず会員とする。
- ③ 会長の任期は、会を積極的にするために、原則1期（2年）とする。

全国から会員を集めたことによって、日本公認会計士協会研究大会が地方で開催される際に、開催地で当会の懇親会を同時に開催する慣例ができました。当会の地方会員が会の企画に参加し易くしたのです。また、会長等役員交代によって会員の若返りが期待できました。最近、役員皆様のご努力により、会員の若返りが進み、当会の雰囲気は設立時とはかなり異なったものになっています。勿論この傾向は好ましいことで、20年間で、会をめぐる環境、とくに公認会計士業界が大きく変貌していますから、会員の構成、開催する講習会のテーマの変化等会の在り方が変わるのは当然ですし、変化しなければむしろ会の活動が停滞し、マンネリに陥っていることになります。現役員方々も会の活性化にいろいろと考えられています。

また、設立時に当会の所在地を中央大学経理研究所とすることをご配慮を渡部裕亘中央大学名誉教授（当時の中央大学経理研究所長）にさせていただいたことは、その後の当会のありかたに大きく影響しました。

中央大学では、学生間で公認会計士試験への関心がまだまだ強く、中央大学経理研究所を中心として、公認会計士試験を受験するための大学からの応援も配慮されているようです。当会に新しい会員の入会が続くことを望んでいます。

末筆になりましたが、当会設立またその後の運営に大学及び学会関係者をはじめ多くの方々から多大のご支援を頂きました。あらためて御礼申し上げます。

海外へのすすめ

中央大学商学部教授
経理研究所所長
間島進吾



2014年1月に、間島ゼミの研修旅行でニューヨークに約1週間行ってきました。

この研修旅行には、間島ゼミ6期生の4年生が23名全員、そして3年生のごく一部の3名、大学院生2名、計28名の学生が参加しました。第1期生の研修旅行で、当初、ニューヨークへ行くと決めましたが、オイルの高騰によるサーチャージが航空運賃以上になり、断念した経緯があり、やっとニューヨーク行きが実現した訳です。

ここ1、2年は韓国のソウル、台湾の台北と海外の研修旅行が続きましたが、国内の研修旅行とは違った経験が学生を大いに魅了しています。ニューヨークでは、私が30年勤めた、KPMG LLPで研修を受け、米国公認会計士事務所における監査業務、品質管理、さらに税務業務、アドバイザリー/コンサルティング業務について具体的な話を聞くことができました。また、ゼミ生はクライアント・サービスのあり方について、様々な視点を知る機会も得ました。公認会計士が活躍するための資質・成功のカギについてニューヨーク事務所のトップのマネージング・パートナーから直に話が聞け、チャレンジ精神を持ち実行することの大切さを学び、学生たちは大きな刺激を受けました。

研修旅行後に参加した学生に感想文を書かせその内容をレビューしましたが、やはり、若いうち

に海外を自分の目で見る必要性を再確認しました。学生たちは英語力の必要性を実感し、これから英語を大いに磨こうという意識を高めたようです。さらに、異人種、異文化に触れる中で、日本(又は日本人)の素晴らしさ、あるいは逆に、日本(又は日本人)あるいは自分自身に欠けているものに気付かされたりし、彼らの今後の人生設計に大きな影響を与えたものと思われます。

また、メトロポリタン美術館などにおける絵画の鑑賞、ブロードウェイ・ショーの観劇、NBAバスケットボール観戦などを通じて、そういった文化を楽しむアメリカ人の様子を観て、自身も人生を大いに謳歌するためにまず、何を成さなければならぬかを考えるきっかけになったといえます。

若い時に海外に出て、異人種、異文化に触れ、考え方や視点の違い、会計基準の捉え方などを肌で感じる機会は、とても貴重です。様々な文化・考えを吸収し、コミュニケーション・スキルを磨く必要があります。忙しさに流されることなく、「自分が何をしたいのか」、「そのために何を磨き、どのように専門性を高めるか」を自問自答し、努力を続けることが大切です。

今回の研修旅行を通し、学生たちの様子から、改めて自分の持論に意を強くしました。

進路相談会について

公認会計士白門会
幹事長
成田 智弘



従前から重点施策として取り組んでいる当会と中央大学経理研究所が共催し開催している公認会計士試験受験者に対する進路相談会を今年度も開催しました。今年度も昨年度に引き続き、8月と10月（昨年度は11月）の2回開催しました。第一回目、第二回目共に670名の公認会計士試験受験者が参加しました。

第一回目は、平成25年8月26日（月）に、中央大学駿河台記念館において、公認会計士試験の受験生（本学在学学生及び卒業生）を対象に「本学出身OB・OGによる監査法人説明会」として監査法人の概要説明ということで開催しました。公認会計士試験の受験生から希望の多い大手5監査法人（新日本有限責任監査法人、あらた監査法人、有限責任監査法人トーマツ、有限責任あずさ監査法人、太陽ASG有限責任監査法人。以上、説明実施順で記載。）から多くのOB・OGが参加し、監査法人の業務やそれぞれの監査法人の特色が説明されるとともに、公認会計士受験者からの質問もなされ、活発な質疑応答により、熱気溢れる進路相談会となりました。



第二回目は、11月の合格発表を控えた平成25年10月28日に就職説明会として実施しました。公認会計士試験合格者の就職難が続いていることから当会でも後輩の支援が必要と考えていたことに加え、中央大学経理研究所からの要請もいただき、昨年度に引き続き、第二回目を開催いたし

ました。8月の第一回目の進路相談会に参加いただいた5つの監査法人（あらた監査法人、太陽ASG有限責任監査法人、新日本有限責任監査法人、有限責任あずさ監査法人、有限責任監査法人トーマツ。以上、説明実施順で記載。）の協力を得て、8月の進路相談会とは異なり、合格発表直前の緊張感あふれる質疑応答が活発に展開されました。

昨年度までとは異なり、合格者の減少、監査法人による採用の増加など、売り手市場に転換するのではないかと予想もありましたが、真剣に自分の将来を考えて質問する公認会計士受験者を見て、中大学生はおとなしくて目立たないので、就職活動の際には不利であるという評価もあるものの、後輩ながら、頼もしく感じるところもありました。

当会としては、昨今の就職難状況の激動に対応し、継続的な進路相談会の実施、一般企業の紹介なども検討し、今後とも後輩を支援していくことを考えています。一人でも多くの後輩が、会計専門職業界に進んでくれるように期待し、バックアップしたいと思います。



第 26 回 CPA ゴルフ十月会の結果報告

公認会計士白門会
幹 事
柴 毅



昨年平成 25 年 10 月 5 日、軽井沢 72 西・ゴールドコースにて第 26 回 CPA ゴルフ十月会が開催されました。参加校 12 校（前年は 16 校）、参加者数は 92 名（前年は 110 名）と、若干規模が縮小している感じですが、それなりの大規模のコンペとなりました。10 月の軽井沢ということで参加を見合わせた方が多かったのかもしれませんが。

当校からは、伊藤大義会長、成田智弘幹事長、小池勇氏、森谷伊三男氏、宮内忍氏、黒田克司氏、柏嵩周弘氏、山田治彦氏、小林直樹氏、私の 10 名が参加しました。この時期の軽井沢は、晴天であればゴルフに最適な気候である、と幹事校の前宣伝があったのですが、生憎の小雨であり、やや肌寒い中、大会が開催されました。一昨年の十月会は快晴・無風の絶好のゴルフ日和であったことから考えますと、幹事校の日ごろの行いの結果ではないかと思われます。

当日、遠藤忠宏前会長もゴルフ場に来られましたが、天候を見て、体調維持優先でお帰りになりました。

当大会は、個人戦、団体戦とあり、個人戦は新ペリアによるネット、団体戦は各校グロス上位 4 名の合計によるグロス勝負及び当大会のメインである各校ネット上位 4 名の合計によるネット勝負となっております。

個人戦（ネット）ですが、小池氏が 4 位、小林氏が 9 位、山田氏が 11 位、宮内氏が 20 位と健闘されました。小池氏はグロスでも 9 位に入っております。

団体戦のグロスですが、1 位早稲田（4 名の合計が 317）、2 位慶応（同 333）、7 位当校（同 360）となっており、なんと 1 位との差が 43 打、一人当たり 10 打以上の差がついてしまいました。

最後に、メインであります団体戦のネットですが、1 位早稲田（4 名のグロス合計 337、ハンデ 48、ネット 289 打）、2 位当校（グロス 371、ハンデ 81.6、ネット 289.4）、3 位慶応（グロス 359、ハンデ 67.2、ネット 291.8）ということで、見事に栄えある 2 位に輝いております。1 位とは、グロスで 34 打も差がついているにも拘らず、これも日ごろの行いのおかげかネットではわずか 0.4 打差という僅差の 2 位となっており、あわや優勝ということで危うく次回十月会の幹事校になるところでした。

なお、獲得した準優勝賞金につきましては、翌日の東京会会長杯にも参加する 8 名にて、ささやかな準祝勝会を開催しましたが、その会費として使わせていただいた次第であります。



表彰式で、見事準優勝に輝いたチームメンバーです。

左から、黒田氏、柏嵩氏、宮内氏、柴、タイガー？、小池氏、山田氏、小林氏、なお、照れ屋の伊藤会長、成田幹事長、森谷氏は写っておりません。

白門ゴルフ大会

昨年11月8日に白門ゴルフ大会が飯能グリーンカントリーにて開催されました。残念ながら当会からの参加者はわずか5名であり、公認会計士白門会のチームとしての参戦は1チームとなってしまうました。参加者は、公認会計士白門会チームとして宮内忍氏、佐野慶子氏、柏壽周弘氏、田中達美氏の4名、私は他のチームの方と混成チーム

として参加しました。これも残念ではありますが、チーム、個人ともに成績振るわず、かつ飛び賞等の幸運にも恵まれず、手ぶらでの帰宅と相成った次第であります。

本年も、十月会、白門ゴルフ大会が開催される予定ですので、是非一人でも多くの方に参加していただければと思います。よろしくお祈りします。

年次幹事会について

皆さんご存じのように、公認会計士白門会は、中央大学出身の公認会計士及び会計士補並びに公認会計士試験合格者の情報交換や会員相互の親睦と資質の向上、また公認会計士業界や中央大学の発展に寄与することを目的として活動しており、事業活動の打合せである幹事会、事業活動の報告に対してご承認いただくための総会及び総会に合わせてCPEが付与される研修会の実施、賀詞交歓会及び賀詞交歓会に合わせてCPEが付与される研修会の実施、公認会計士大学対抗ゴルフ大会(十月会)、白門ゴルフ会(中央大学OB、OG懇親ゴルフ会)、日本公認会計士協会の研究大会後に行う懇親会、他大学との懇親、中大技術士会や法曹会などの学員会他団体との交流会や情報交換会、ボーリング大会などを実施しています。

一昨年から、従来の活動に加えて、試験合格年度、卒業年度、入学年度などを同じくする仲間との懇親や情報交換を積極的に進めるための年次幹事会制度を設けました。今期、平成25年度においては、平成26年1月11日(土)に幹事会と同時開催で年次幹事会も開催し、終了後に懇親会も開催しました。

年次幹事会については、仲間で声を掛け合い集まって懇親を図り、勉強会や情報交換会を積極的

に行っていたらと考え、会合等のための予算も計上しています。各分野に精通した諸先輩もいらっしゃいますので、勉強会などにお呼びし、勉強会の後で懇親会を開催することも可能です。また、当会の活動が日本公認会計士協会の研究大会が地方で開催される際の懇親会の開催を除き東京中心になってしまっていますので、各地区で懇親会等を開催する際には、当会から一部補助することも可能となっています。さらには、東京在住の幹事・年次幹事を講師として派遣するための交通費・宿泊費の一部を補助することも可能です。白門の仲間勉強会、懇親会等を開催する場合には御一報いただければと思います。

今後、年次幹事として指名させていただくことなどもあるかと思いますが、年次幹事の皆様には、懇親会、勉強会や情報交換会の旗振り役として積極的にご活動いただければと思います。総会や賀詞交歓会の補助をお願いすることもあるかもしれませんが。公認会計士白門会としてはそのような活動を積極的に後押しして行きます。

最後になりますが、年次幹事希望の方は、幹事長(成田智弘、narita-tmhr@shinnihon.or.jp)までご連絡ください。

公認会計士白門会
幹事長
成田智弘



2013 年度中央大学公認会計士試験合格祝賀会

公認会計士白門会
監 事
常 山 邦 雄



2013年12月16日に東京ガーデンパレスにおいて、2013年度中央大学公認会計士試験合格者祝賀会が開催されました。2013年の公認会計士試験の最終合格者数は1,178人(合格率8.9%)で、前年の1,347人から大幅に減少し、受験者には厳しい状況になっています。しかし、合格者数が少なくなったためか、懸念されていた監査法人への就職状況は大幅に改善しているとのことでした。また、全国大学別合格者数が公表されていないため、本学最終合格者数については調査中ですが、当日現在76名の合格者が判明しており、今後更に増加する模様との司会者の報告がありました。当日は本学合格者のうち46名が参加しましたが、参加者全員喜びが顔一杯に溢れ、その眼はキラキラと若々しく輝いていました。大学関係者からは例年より在学中の合格者が多いのではないかとの話題も出ていました。

祝賀会は中央大学学長福原紀彦氏の挨拶から始まりました。合格おめでとうございます。公認会計士に寄せられている社会からの期待は大きく、今後も更なる研鑽を積み、大いなる一步を踏み出してほしいとの祝いの言葉がありました。次に中央大学常任理事・総長職務代行遠山暁氏の挨拶が続き、来賓祝辞では日本公認会計士協会常務理事で本会幹事でもある柴毅氏より祝いの言葉がありました。今後苦しいときには合格を支えてくれた身内や大学関係者への今の感謝の気持ちを思い出してほしい。最初の1年は検証業務等が多く大変でしょうが監査のどの部分の手続きを行っているかを良く考え、理論に結び付けながら、将来大きな業務を行う際の経験にしてほしいとのアドバイ

スがありました。本会公認会計士白門会会長伊藤大義氏により盛大に乾杯の音頭が発せられ、更に、本会の合格者への入会案内の説明もありました。合格者達も初めは緊張の面持ちで祝賀会に臨んでいましたが、次第に打解けて各コーナーで先輩達と活発に話し始め、次第に歓談の輪が広がって行きました。中央大学商学部部長河合久氏より大学を代表して合格者に記念品贈呈がありました。同氏から記念品と共に社会との信用関係を繋ぐ印鑑である実印を作り、そしてそれを大事に取扱ってくださいとの言葉も贈られました。合格者を代表して商学部4年生の竹渕大晃君から謝辞がありました。恵まれた受験環境を備えてくれた大学や経理研究所等から熱心な指導を受け誠に感謝しています。中央大学は受験者数が多いため受験勉強中に孤独になることはありませんでした。今後も合格者共に研鑽を積んで頑張ってくださいとの力強いスピーチがありました。閉会の辞では中央大学教授・経理研究所所長間島進吾氏が合格者は現在の感謝の気持ちを更に新たなエネルギーに変え、グローバルな視点から変化を先取りするように努めてほしいとの激励の言葉がありました。

合格者はこの祝賀会で多くの諸先輩と交流することができ、多くの期待が寄せられていることを知り、再び合格の喜びを噛みしめたことでしょう。この若き合格者達はいずれ公認会計士業界の中核として業界の将来を担ってくれる人達になるでしょう。その輝いた眼で今後も研鑽を積み、公認会計士業界並びにそれに関係する様々な業界において、大きく羽ばたき、公認会計士業務を通じて社会に貢献して行かれることを大いに期待します。

監査基準等の動向について

公認会計士白門会
幹事
柴 毅



公認会計士白門会幹事の柴 毅でございます。
ここ一年の監査基準等の動向についてご報告します。

<不正リスク対応基準>

まずは、不正リスク対応基準（以下、基準という）ですが、平成25年一昨年暮れ、金融庁より公開草案が出され、昨年3月に公布されました。企業会計審議会監査部会においては、「近時、金融商品取引法上のディスクロージャーをめぐる、不正による有価証券報告書の虚偽表示等の不適切な事例が相次いでおり、こうした事例においては、結果として公認会計士監査が有効に機能しておらず、より実効的な監査手続を求める指摘があるところである。」とし、現行の監査基準、監査に関する品質管理基準からは独立した基準として設定されています。議論の場が企業会計審議会なので、ある程度やむを得ないとは思いますが、不祥事の最大の原因は経営者の誠実性の欠如であり、これを無くすためには、二重責任の原則を念頭に置いたうえで財務諸表作成者への罰則等の強化の議論が先に進められるべきであると感じています。なお、基準により監査時間の増加が見込まれること、これによる監査報酬の増額については、監査部会のメンバーの方々は一定の理解を示していると聞いております。

基準は、第一 職業的懐疑心の強調、第二 不正リスクに対応した監査の実施及び第三 不正リスクに対応した監査事務所の品質管理、の三つから構成されています。

基準の特徴は、現行の監査基準のアプローチを前提としつつ、①職業的懐疑心の強調、②監査基準、監査基準委員会報告、品質管理基準にちりば

められている不正リスク対応への要求事項を、監査計画から監査意見までの業務の流れに沿っての整理、③不正による重要な虚偽表示を示唆する状況並びに虚偽表示の疑義を識別した場合に追加すべき監査手続の明確化にあると思います。

適用は、監査事務所の品質管理については平成25年10月1日から、個々の監査業務に関しては平成26年3月期決算監査から適用されます。

これを受け、昨年4月、7月及び12月の3回にわたり、JICPAの会長声明が発出されています。特筆すべき内容は、昨年4月、山崎前会長が発した会長声明であり、その内容は、「適切な監査時間及び監査報酬について」と題し、経済社会の複雑化、多様化に伴う監査リスクの増大に加え、基準により不正による重要な虚偽の表示を示唆する状況を識別した場合等には、追加的な監査手続の実施が求められることになる、といった監査環境下において、監査時間又は時間当たりの監査報酬の額が合理的な理由なく著しく減少している場合は、公認会計士制度の社会的信頼の喪失を招くおそれがあるという警告を発し、監査の品質の維持・向上には合理的な監査報酬が不可欠であることを強調しています。これは、会員向けの声明ではありますが、一般社会に対しても協会としての考えを広く主張しているものとして評価すべき声明であると思います。

7月の声明は監査役とのコミュニケーションの充実についての再確認、12月の声明は、昨今の決算早期化による会社法監査報告書の発効日の早期化の傾向において、仮に不正による重要な虚偽表示を示唆する状況等を識別した際には、当然ではありますが、追加すべき監査手続の実施を優先すべきことを述べております。

＜審査を要しない場合＞

不正リスク対応基準と同時に公表された改訂監査基準 第四報告基準 一基本原則5において、「品質管理の方針及び手続において、意見が適切に形成されることを確認できる他の方法が定められている場合には、この限りではない。」とされ、審査を必要としない場合があることが明確にされました。品質管理基準委員会報告書第1号「監査事務所における品質管理」（以下「品基報第1号」という。）第34-2項において、幼稚園のみを設置している都道府県知事所轄学校法人の私立学校振興助成法に基づく監査（以下「幼稚園法人監査」という。）、又は任意監査のうち、監査報告の対象となる財務諸表の社会的影響が小さく、かつ、監査報告の利用者が限定されている監査業務については審査を要しないとすることができるとされました。また、当該「他の方法」については、監査責任者が意見表明前に実施し、文書化した自己点検が含まれるとされ（品基報第1号第41-2項、A46-2項）、本年1月20日に品質管理基準委員会より、品質管理基準委員会研究報告第1号「審査を実施しない場合の自己点検チェックリスト」が公表されておりますので、参考にしてください。ただし、下記の状況の場合においては、審査の可否を慎重に検討することが必要になりますのでご留意ください。

- ・ 独立性の阻害要因に対するセーフガードとして審査を実施する場合
- ・ 会計方針、会計上の見積り及び財務諸表の開示を含む、企業の会計実務の質的側面のうち重要なものについて、監査意見に影響を与える懸念がある場合（監基報260第14項（1）参照）
- ・ 監査期間中に困難な状況に直面した場合（監基報260第14項（2）参照）
- ・ 監査の過程で発見され、経営者と協議又は経営者に伝達すべき重要な事項について、監査意見に影響を与える懸念がある場合（監基報260第14項（3）参照）
- ・ 絶大な影響力を有する関連当事者との重要な取引が存在する場合（監基報550第18項参照）
- ・ 継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるよ

うな事象又は状況がある場合（監基報570第15項参照）

＜一般目的、特別目的の財務報告にかかる監査＞

昨年11月、企業会計審議会監査部会より、監査基準改訂の公開草案が出されました。主な改訂内容は、現行の監査基準では、幅広い利用者に共通するニーズを満たすべく一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成された財務諸表（以下 一般目的の財務諸表）に対して公認会計士が監査を行う場合を想定していましたが、近時、公認会計士に対して、特定の利用者のニーズを満たすべく特別の利用目的に適合した会計の基準に準拠して作成された財務諸表（以下 特別目的の財務諸表）に対しても、監査という形で信頼性の担保を求めたいとの要請が高まっており、国際監査基準の動向も踏まえ我が国の監査基準の改訂が進められています。公開草案に対するコメントの募集は昨年内に締め切られており、年度内には確定版として発出される予定です。

これを受けて、JICPAでは、昨年末に監基法800号「特別目的の財務報告の枠組みに準拠して作成された財務諸表の監査」、805号「個別の財務表、財務諸表の特定の構成要素、または財務諸表項目に対する監査」の公開草案を発出し、本年1月にはこれに係るQ&A（監査基準委員会研究報告）の公開草案も出されています。

今まで、監査の対象が財務報告のフレームワークとは別の基準に準拠して作成されていることから、監査ではなく「合理的保証」という形の業務を行ったり、そういった状況であっても監査と銘打った業務として法定されていることから、なんとなく不自然さを感じながらも「監査」として行っていた業務が多々あるようです。今回の監査基準の改訂により整理が進むものと思われます。なお、協会としては、非営利法人委員会、学校法人委員会、電気、電力、ガス等の業種別委員会等、800号、805号に関係する業務の洗い出しと整理の作業が進められており年度内にはある程度のめどが立っ見込みであり、各委員会より会員向けに何らかの形での情報提供をする予定です。

特別講演会・新年賀詞交換会について

公認会計士白門会
幹事
三宅 博人



平成 26 年 1 月 31 日（金）、中央大学公認会計士白門会は、中央大学駿河台記念館において新年度の幕開けとして標記イベントを開催した。約 40 名が参加した。以下、その概要について報告する。

・特別講演会

特別講演会では、講師として山田治彦・日本公認会計士協会（JICPA）副会長をお招きし、会務報告についての講演をいただいた。山田氏は、現在 JICPA のスポークスマン担当副会長として辣腕を振るわれているが、以下の諸点について論じられた。

1. 税理士法改正への対応

「日本税理士会連合会と JICPA の対応等」について、いわゆる能力担保措置に対しては全面的に反対すること、恒久的に公認会計士の資格で税理士業務を行うことが可能な制度を維持するための法改正を求めていくこと等を強調した。

2. 社会へのニーズへの対応

まず、「公的分野、非営利分野の会計制度の見直し」について、地方公会計の整備、非営利組織の会計制度の整備を指摘した。次に、「子ども・子育て支援新制度への対応」として、公費支援制度の変化に応じた公認会計士監査の実施の要請を挙げた。「中小企業支援」については、経営革新等支援機関認定制度への対応について論じた。さらに、特別目的の財務諸表等に対する「監査基準の改定」について述べた。

3. 監査の信頼性確保

不正リスク対応基準や会社法監査に対する「適切な監査時間の確保」、現行の指導的性格から指導及び監督を視野に入れた「品質管理レビュー制

度の見直し」について論じた。

4. IFRS 導入への対応

「当面の対応」として、任意適用要件の緩和、連結財務諸表規則の改正等を踏まえ、監査人のための相談窓口を設置する等の支援体制の構築、IFRS に関する一層の研修の充実を挙げた。

5. 公認会計士制度

「公認会計士試験」については、待機試験合格者が取束しつつある一方で、受験者の減少、監査報酬の低減傾向等のあらたな課題が生じているとの懸念を指摘した。また、会計専門家として、会計という社会インフラを支える「公認会計士がいかにあるべきか」という姿の検討の実施について論じた。さらに、わが国では諸外国と比較してその数や割合が少ないと言われる「組織内会計士（PAIB）協議会」の取り組みについて述べた。

・賀詞交歓会

引き続き、会場を移して賀詞交歓会が行われた。伊藤大義・現公認会計士白門会会長はもとより、以下、歴代会長の多くが参加された。記して御礼申し上げたい。（ ）内は就任年度である。

増田浩二先生（平成 9 年～10 年）、木下徳明先生（平成 13 年～14 年）、金井一夫先生（平成 15 年～16 年）、福田眞也先生（平成 17 年～18 年）、三和彦幸先生（平成 19 年～20 年）、宮内忍先生（平成 21 年～22 年）。

この他にも藤沼亜起先生（日本公認会計士協会元会長）、黒田克司先生（同元副会長）をはじめ多くのキラ星の如き、諸先輩方もスピーチされ、賀詞交換会は大盛況であった。

こうした中央大学の公認会計士会の黄金期と比較すると、現状、若手公認会計士の白門会への関

心離れは否めないが、次代を担う、本年度合格者3名も参加された。

公認会計士白門会の発展を祈念して止まない。

公認会計士試験合格体験記

中央大学商学部会計学科4年
齋藤貴也



私は大学入学時、大学生活をバイトやサークルをして友達と楽しく過ごすより、何か1つでも資格を取って社会に出たときのアドバンテージを獲得したいと思っていました。そのようなときに「公認会計士」という職業に出会い、その魅力にひかれ、公認会計士試験に挑戦しようと思いました。そして大学入学と同時に経理研究所で勉強を始めました。

私が所属する経理研究所のコースは大学3年生の5月に短答式試験を、大学4年生で論文式試験を合格するという内容でした。大学生活4年間をかけて合格を勝ち取るということから、私は「決して挫折してはならない」と思い、やることに対して必ず目標を立て1つ1つ乗り越えていく方法で勉強をしました。その中で印象的なのは、大学1年生のとき日商3級を満点で合格するという目標を立て、目標通り満点で合格できたことです。このことは公認会計士になるための第一歩として自分に大きな自信を与えました。その後も手を休めることなく目標を次々とこなし順調に勉強を続けていました。

しかし、大学2年生の日商1級の試験前に突然まったく勉強が手につかなくなりました。勉強する科目数が増え、予定が上手く回らなくなり、目

標が達成できなくなっていたのです。そのため、自分の中に張りつめていたものが切れてしまい、初めて経理研究所の授業を休ました。その間は友達と遊びに行ったり、飲み会で大騒ぎしたり、ゲームをしたりと今まで全くしていなかったことをしました。そんな生活を続けているうちに「決して挫折してはならない」という勉強を始めたときの気持ちを思い出し、少しずつ勉強を再開しました。このことは自分自身を見つめ直すよい機会となり、今後の受験勉強に大きな影響を与えました。

勉強を再開してからは「ストレスをためない」ことが目標となっていました。そのため、適度な息抜きをし、睡眠時間は最低8時間をキープし、暗記量を減らすために自分でテキストを作成しました。また、大学2年生の秋からは吉田先生にスケジュール管理をしてもらい、無理のない勉強を心がけました。そして、大学3年生の5月に短答式試験を、大学4年生の8月に論文試験を合格し、当初の予定通りに公認会計士試験に合格することができました。しかしながら、現在でもまだ合格したという実感はなく、ようやくスタートラインに立ったという思いが強いです。

最後になりましたが、これまで支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。

公認会計士試験合格体験記

中央大学法学部法律学科5年
長屋美緒



私が公認会計士を志した理由は、まずは、大学で資格を取得し自分が生きていく武器にしようと考えたためです。数ある資格の中であえて公認会計士を選んだ理由は、まず簿記の面白さです。大学に入学するまでは全く知らない世界でしたが、お金の流れを記録するための、借方と貸方から成り立つこのシステムがとても面白いものだと感じました。また、私は法学部ですが、会計という畑違いの分野に挑戦することは自分の幅を広げることになると考えました。自分に付加価値を付けるため周囲の人と違うことに挑戦したいという意識も持っていたことから、私は公認会計士試験に挑戦しようと決意しました。

勉強を始めてから、それが予想していた以上に困難な道のりであると気づきました。その中でも、特に学部との両立が大変だと感じました。しかし、公認会計士を目指すことは自分自身が決めたことだという意識がありました。自分の決意を大学生というこの時期に貫き、将来につなげることで、これから生きていくための自信を築くことができると考えました。また、応援してくれる方々の存在は、勉強を続ける上でとても大きなものでした。家族や友人、先輩方に支えられ、決して諦めず、必ず合格しようという気持ちを持つことができたと考えています。

勉強を続ける上では、大まかでも譲れない方針が大切だと感じました。私の場合は、計算力を強化しよう講師の方が助言してくださったため、その方針で勉強するよう決めました。そのように自分が何をを目指すのか明確にしたことで、何をやるべきか迷うことが少なくなりました。理論を勉強する上でも、計算が身につけていることが、理解する上でとても大きな助けになりました。

また、成績に一喜一憂しないことは大切ですが、あまり頓着しないことも問題だと考えていました。一度気が緩むと、それをもとのモチベーションにまで戻すことは困難だと実感していたためです。どの試験であっても本番のように臨むという意識を忘れず、丁寧に受験するという心を心がけていました。

最後に、どのような状態でも勉強を続けることが大切だと感じました。思うようにいかない状況であっても、目標を見失わず努力し続けることで道は開けるということを、この試験を通じて学ぶことができました。

最後に、今回合格することができたのは、家族をはじめとした周囲に支えられたからこそだと、深く感謝しています。その気持ちを忘れず、これからも着実に歩んでいきたいと考えています。

公認会計士試験合格体験記

中央大学経済学部国際経済学部6年
松尾 恵梨子



会計士試験は凡人の努力大会という言葉をご存知でしょうか？公認会計士試験は、凡人でも努力すれば受かる試験だと言われています。しかし、この努力の意味について勘違いしている受験生はたくさんいるのではないかなと思います。「勉強を頑張ること」というのは努力ではありません。勉強を頑張ることは、会計士試験という難関試験を突破するために当たり前誰でもやることであってそれを努力だ思っているうちは合格することは出来ないと思います。

そんな私も大学ではサークルもアルバイトもしていて、簿記の2級を取得してからは勉強についていけなくなり、所属していた経理研究所の授業にもでなくなり、フェイドアウト寸前の人間でした。そんな私が試験勉強に本気になったのは3年生の10月頃、就職活動が始まる頃でした。きっかけは、自分の進路について考えやっばり公認会計士になりたいと思い、取り替え不能な人材という「理想の自分」というのが出来たと同時に、経理研究所の定期試験で最下位をとり「現実の自分」というのを突きつけられたことでした。その2つのギャップがあまりに大きくて、言い訳ばかりして逃げてきた自分を本当に恥ずかしく思いま

した。そこからはただひたすらに勉強しました。

短答試験では、勉強の遅れを取り戻すためにとにかく時間をかけ8時から23時まで研究室にいました。要領の良いタイプではなかったので、人が1回読むテキストは10回読みました。論文試験は長期戦です。体力にもメンタルにも自信がなかったので、心と体のバランスを考えて勉強しました。自分が今どんな状態にあるのか、あとどれくらいやるとパンクしてしまうのか、そんな事を常に考えて、自分と向き合いました。このように、私は不器用ですし、要領も悪いですし、体力もありません。しかし、経理研究所の仲間と肩を並べるために、早慶や東大生に負けなために、自分の弱点を補うために、誰よりも努力してきたと自信を持って言えます。自分の弱点を知り、それを補うために何をしたら良いのか考え、実行すること。それが凡人に出来る努力ではないかなと思います。

3年間の止まっていた時間が動きだし、ようやくスタートラインに立つことが出来ました。これからは凡人に出来る努力を重ね、私らしさを活かしながら公認会計士として活躍して行きたいです。

平成 25 年公認会計士試験 出身大学別合格者数

1 位 (1)	慶応大学	121	(161)	6	(8)	神戸大学	36	(29)
2 (2)	早稲田大学	93	(109)	7	(10)	東京大学	33	(28)
3 (3)	中央大学	77	(99)	8	(-)	関西学院大学	32	(-)
4 (4)	明治大学	68	(63)	9	(-)	京都大学	31	(-)
5 (5)	同志社大学	49	(49)	10	(9)	青山学院大学	26	(29)

() は前年順位及び人数

他大学の人数は日本公認会計士協会提供データを参考に当会にて調査 (2013 年 12 月末現在判明数)

各大学数字は、学部卒業および在学者のみ (大学院を除く)

2013 年公認会計士試験合格者 (80 名)

氏 名	学 部 等	在・大学卒	氏 名	学 部 等	在・大学卒	氏 名	学 部 等	在・大学卒
飯島 正史	商学部	2003年卒業	代田 和樹	商学部	2012年卒業	長谷川佳苗	商学部	6年在学中
井口 貴仁	商学部	3年在学中	高木 武陽	商学部	2年在学中	東丸 恵理	商学部	2009年卒業
市川 奈菜	商学部	4年在学中	高木 千愛	商学部	2年在学中	平松 達哉	商学部	5年在学中
岩村 俊明	商学部	3年在学中	高坂 裕也	商学部	2013年卒業	廣瀬俊一郎	商学部	2005年卒業
内堀 孝盛	商学部	2012年卒業	竹田 計蔵	商学部	4年在学中	藤城百合香	商学部	4年在学中
呉 泰成	商学部	2011年卒業	竹中 孝輔	経済学部	2009年卒業	藤谷 卓哉	商学部	6年在学中
大高 巧	商学部	4年在学中	竹中 双菜	商学部	2013年卒業	古谷 優樹	商学部	5年在学中
大場 聡子	商学部	2011年卒業	竹淵 大晃	商学部	4年在学中	本田すみれ	商学部	4年在学中
大原 隆	法学部	2013年卒業	田島 寛之	商学部	6年在学中	前田 翔	文学部	2007年卒業
加藤 文	商学部	4年在学中	田代 典之	経済学部	2012年卒業	牧野 宏樹	経済学部	4年在学中
加藤 雄太	商学部	4年在学中	田中 宏和	商学部	2007年卒業	増野有紀奈	商学部	3年在学中
河村 真希	商学部	2006年卒業	田中 祐太	商学部	3年在学中	松浦 涼太	商学部	3年在学中
木南 利一	商学部	2009年卒業	棚橋 雄輝	商学部	4年在学中	松尾恵梨子	経済学部	4年在学中
桐ヶ谷 智	商学部	2011年卒業	段 将大	商学部	2012年卒業	松末 幸湖	商学部	2013年卒業
栗田 健太	商学部	3年在学中	土屋 直毅	経済学部	4年在学中	水越 直哉	経済学部	4年在学中
栗田 有希	商学部	2012年卒業	鶴田 隆文	法学部	2013年卒業	宮下 祐樹	経済学部	2009年卒業
小嶋 隆仁	商学部	4年在学中	寺田 将之	商学部	2009年卒業	三輪 仁弥	商学部	2年在学中
越山 充	経済学部	2010年卒業	中川 智嗣	経済学部	2012年卒業	森川 広平	経済学部	4年在学中
後藤 功雄	経済学部	2013年卒業	中島 久允	商学部	4年在学中	森谷 瑞希	商学部	2010年卒業
小林 紘一	商学部	2002年卒業	仲宗根すみれ	経済学部	2010年卒業	八木 達也	商学部	2011年卒業
小谷野 航	経済学部	2011年卒業	仲野 良	商学部	3年在学中	八島 純平	理工学部	2009年卒業
齋藤 貴也	商学部	4年在学中	中村 太一	商学部	2008年卒業	山崎 太彰	商学部	2012年卒業
坂本 光輝	経済学部	2年在学中	長屋 美緒	法学部	5年在学中	山家 和敏	経済学部	2010年卒業
柴田 貴章	商学部	5年在学中	根本 彩加	経済学部	2012年卒業	横幕 洋平	商学部	2013年卒業
清水 太一	経済学部	5年在学中	根本有梨子	商学部	2011年卒業	吉賀 法永	理工学部	2012年卒業
角 尚大	商学部	4年在学中	野島由紀子	商学部	4年在学中	吉成 優惠	商学部	4年在学中
藺田 明香	経済学部	3年在学中	橋本 優	商学部	2009年卒業			

◆公認会計士白門会役員◆

会 長	伊藤 大義	経済学部・昭和46年卒	幹 事	梶山 嘉洋	商学部・平成15年卒
幹 事 長	成田 智弘	商学部・昭和59年卒		中原 國尋	大学院商学研究科・平成13年修了
幹 事	青木 幹雄	商学部・平成13年卒		畠中 隆徳	商学部・平成10年卒
	石野 研司	商学部・平成4年卒		降旗 京二	商学部・平成2年卒
	加藤 暁光	商学部・平成2年卒		三宅 博人	経済学部・平成元年卒
	河合 明弘	商学部・平成3年卒		吉井 敏明	商学部・平成3年卒
	岸田 靖	商学部・昭和61年卒		若山巖太郎	商学部・平成12年卒
	郡司 昌恭	商学部・平成12年卒	会計監事	常山 邦雄	商学部・昭和46年卒
	柴 毅	商学部・昭和58年卒		柏寄 周弘	商学部・昭和53年卒
	白髭 英一	商学部・平成12年卒			

編集後記

岸 田 靖

平成26年4月1日より17年ぶりに消費税率が5%から8%に引き上げられます。税務を主体とする会員の皆様だけでなく、景気や世の中の暮らしにどのような影響を与えるのか注視されるところです。近隣諸国との関係もなかなか落ち着きを見せませんが、せめて景気だけでも安定してもらいたいと願っております。

さて、今回の絆は第20号となります。毎年の発行ですので、ちょうど20年目の節目を迎えたということとなります。創立時より参画頂きました会員の皆様にとって、この20年間の会計士としての業務、そして、仲間との関係はいかがでしたか？この絆が本会会員の皆様にとって、少しでも「役に立ったな」と思われる存在であるよう心がけてきたつもりではありますが、皆様の益々ご発展に少しでも寄与できるよう、そして仲間作りに少しでも役立つよう努力を続けていきたいと思っております。

そんな記念となる第20号ですが、巻頭においては新しく会長に就任された伊藤大義会長から20年間の活動を総括して頂きました。また、当会設立に大変ご尽力頂きました増田先生に当時の状況についてご執筆頂きました。

中央大学商学教授で経理研究所所長の間島先生からは「海外へのすすめ」という題目でご寄稿頂きました。また、恒例となりつつある「進路相談会について」や「年次幹事会について」成田幹事長に執筆頂きました。更に常山監事に「2013年度中央大学

公認会計士試験合格祝賀会」について執筆頂きました。本会も20年の歴史を積んでまいりましたが、若い世代の会員の参加が少ないことを危惧しております。若い会員の方にももっと気軽に参加頂けるよう大学との関係も図り、会としての運営にも反映して行きたいと考える次第です。

恒例となりましたCPAゴルフ十月会及び白門ゴルフ大会の模様については柴幹事に執筆頂きました。今年は少々参加者も少なかった様子ですが、是非会員の皆様の積極的なご参加をお願いします。

新年となって開催した特別講演会と新年賀詞交換会の模様については三宅幹事に執筆頂きました。今年には山田日本公認会計士協会副会長を講師としてお招きし、業界の動向等についてお話を頂きました。

更に、監査基準の動向について日本公認会計士協会理事でもある柴幹事から報告して頂きました。

会計士試験合格者の就職問題については、本年度は売り手市場に転じ、合格者も昨年度よりは就職し易かったのではないかと思います。当年度の会計士試験合格者の中から斎藤さんと長屋さん、松尾さんには恒例の合格体験記をご寄稿頂きました。

幹事一同、出来る限り会員諸先生方にとって有意義な活動となりさらに公認会計士白門会に入って良かったと思って頂けるよう微力ながら頑張っておりますので何とぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

公認会計士白門会会報 No.20

平成26年3月31日発行

発行人 公認会計士白門会会長

伊藤 大 義

発行所

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5

中央大学駿河台記念館4階

中央大学経理研究所気付